

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グリーンヒルキッズ・ジュニア		
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日 ～ 令和7年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日 ～ 令和7年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・学習支援	・支援級の生徒に対して、日常生活に活用できる学習教材の提供を行い、意欲関心を高める支援を行っている ・児童指導員に教員経験のある職員が多いので、わかりやすい教科指導が行え、子どもも保護者も満足している	・高校進学をふまえて、保護者との面談・連携を密にて、一人ひとりに応じた学習支援体制を構築する。
2	・社会性の向上	・コミュニケーション能力の向上・適切な距離感を保ち交流すること・危険認知力などSSTを通して学ぶ機会を設けている 自立に向けたプログラムを作成して取り組んでいる	・SSTを通して人との良いかわり方を学ぶ機会を作る ・学童との交流・高齢者施設の交流など地域との交流を通して社会性を身につける取り組みを行う
3	・家族支援	・保護者からの相談・保護者自身のメンタルサポートをおこなっている ・必要に応じて関係機関との調整を行い、保護者の精神的な負担を軽減している ・月1回の保護者茶話会を開催し、情報共有したり、家族が孤立しない支援を行っている	・学校・行政等と連携を図るコーディネーターの役割をもって取り組んでいきたい

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・学習支援	・中学生への学習支援ができる職員が常駐すること ・指導領域が広範囲であり、指導も個別のため、生徒・保護者の要望に応えるのには限度がある	・学習に集中できる環境作りを設定する ・個別指導に対応できる職員を増員する ・教材研究を行い、子どもの興味関心の幅が広がる支援につなげる ・職員の研修時間の確保をする
2	・社会性の向上	・相手の話を聞き、アサーティブな会話ができるようSSTを通じて学ぶ機会を設ける。 ・地域との交流を増やしたいが、平日は放課後で時間が取れない状況である ・相手の気持ちがわかり、自分の言葉で気持ちを伝えることができる社会性を身につける	・自立に向かい、公共機関を使って外出するなど、他者との関りを増やし、その場に応じた判断ができるようなプログラムを組み込みたい ・思春期における距離感の取り方を学び、円滑な他者との関係が構築できるようになる
3	・家族支援	・保護者との信頼関係の構築が必須である。 ・保護者のメンタルに応じるためのスキルアップが必要だが非常にむずかしい	・県の行政機関や八千代市の福祉機関を利用することを促し保護者の着持ちに寄り添えるように支援する